



## ○ 平成23年9月 定例役員会

日時： 平成23年9月10日（土）13:00～16:00  
場所： ふるさと歴史館 （17時より誕生会・丸藤）

## ○ 9月、10月度合同お誕生会（担当幹事 滝川桜子 394-8187）

日時： 9月10日（土）17:00～19:00  
場所： 割烹「丸藤」久米川駅南口から徒歩1分  
電話 042-395-5646  
会費： 3,000円

9月、10月生まれの方は、このお誕生会へご参加ください。お待ちしております。（2か月合同のお誕生会開催となりますため、10月お誕生の方もこの9月10日にお誕生会の実施となりますので、お間違えのないようご注意ください。）

尚、誕生月ではないが誕生月の方をご一緒にお祝いして下さる方のご参加も歓迎いたします。また誕生月該当者の方で、下記されていない方は担当幹事までご連絡ください。

### ☆ 9月度お誕生の方々（敬称略 12名）

池田孝、市川暢男、小久保清、人保祐行、高橋英雄、滝来洋二、月森通夫、戸田志郎、姫野圭治、丸本聡明、室井秀嗣、青山稔

### ☆ 10月度お誕生の方々（敬称略 11名）

安藤清、五十嵐勝男、上幸雄、木原晴彦、久保栄二、滝来京子、中川俊郎、町田和夫、小永井哲哉、出田邦博、松久由香里

## ○ 第74回雑学講座

日時： 平成23年10月8日（土） 15:00～16:30  
場所： 未定  
講師： 荻野 晃氏（41年政経卒・元カネボウ広報部長・現日本マンパワー）  
（小平市在住）  
演題： 「キャリアカウンセラーという仕事」

民間再就職支援や大学生就活支援などの仕事について、現在の日本の雇用問題を語っていただきます。

## ○ 他稲門会等の関係

**\* 東京三多摩支部会長会** 9月26日（金）18時～ 小金井商工会館  
小亀会長・當間副会長・當摩副会長出席予定

## ○ 大学関係行事

### \* 天野為之と早稲田大学展

「早稲田四尊」の一人に数えられる天野為之（1861～1938）は本年生誕百五十年を迎えます。天野は明治期の代表的な経済学者・経済評論家として知られたほか、東京専門学校（現早稲田大学）の創設に参加し、のちに早稲田実業学校校長・大学部商科初代科長、大学第二代学長を務めました。本展示会では早稲田と天野を結ぶさまざまな資料を紹介し、その隠れた功績に光りを当てます。

会 期 9月7日～10月8日 （日曜・祝日閉室）  
時 間 10時～18時  
会 場 26号館大隈記念タワー10階 「125記念室」

## ☆東日本大震災被災者支援

6月末現在47名の会員の皆様から108万円の支援  
さらなる支援をお願い致します！！

会員皆様のご協力により6月末現在47名の皆様から108万円のご支援を頂きました。

4・5月に協力頂いた皆様のご氏名は8月分「早稲田学報」の寄付者芳名に掲載されています。当会会員で個人名でご支援頂いた方もおられますので、その方の分を含めると47名の方から、108万円のご支援を頂きました。心から感謝申し上げます。

また、このサポーターズ倶楽部の救援金の募集は12月末まで受け付けていますので、罹災によって学業に困難をきたす学生を支援するため、千円でも二千円でも、一人でも多くの皆様のご協力を切にお願い申し上げます。稲門会の主たる目的は卒業生の親睦が中心ですが、100年に一度ともいわれるこのような大災害の時に被災地出身の後輩学生を支援することは早稲田人としての心意気を示すことでもあり、稲門会としても重要な活動であると思います。東村山稲門会から支援の輪を全国の稲門会に広げていきたいと考えています。

(専用の振込用紙をお持ちでない方はご連絡下さい。電話394-6951 小亀)

## ☆ 2011年度商議員会報告

去る7月9日(土)に大隈講堂にて午後2時より開催されました。守田総務部長より開会宣言があり、先ず昨年5月から今年の7月までの55名の物故者、及び東日本大震災によって犠牲となった方々のご冥福を祈って、全員で黙禱いたしました。

小紫副会長の挨拶に続いて、鎌田総長よりの挨拶がありました。「昨年11月総長に就任し、常務理事5名、理事12名、幹事2名の新たな体制でスタートした。今後とも、これまでの「Waseda Next 125」計画に盛り込まれた基本的な方向性を踏襲しつつ、グローバル社会における知の具現を目指し、挑戦する人材の育成を目指していきたい。」との決意表明がありました。

2010年の大学の財務報告があり、消費支出超過額として70億円が示されました。その後商議員会の決算と予算の説明があり承認されました。

学事報告として、社会科学総合学術院の早田教授より「大規模災害への復元力のある新たなグローバル社会システムの再構築」という講演が、映像を使って行われましたが、内容を把握するのは困難でした。

終了後、リーガロイヤルホテルで懇親会が準備されておりましたが、出席せず帰宅しました。

(小野記)



### 訃報

当会副会長兼事務局長の當間昭治さんのご母堂當間ツネ殿(90歳)には6月29日(水)肺炎のためご逝去なされました。通夜・告別式は7月4日・5日にご自宅で行われました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

(なお、会則によりご生花並びに総長からの弔電を差し上げました。)

### 訃報

当会会長小亀輝雄さんのご母堂小亀やす殿(100歳)には7月7日(木)老衰のためご逝去なされました。通夜・告別式は7月9日・10日に家族葬で行われました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

(なお、会則によりご香典並びにご生花を差し上げました。)

## 平成23年7月・8月度合同「お誕生会」報告



担当幹事：滝川桜子 ☎394-8187

7月、8月の合同お誕生会は、6月9日(土)いつもの割烹丸藤で行われた。参加者は、お誕生者、7月生まれ5名、8月生まれ6名の11名だった。さらにお誕生者を共に祝うため出席した役員等13名の参加があり合計24名だった。母堂逝去のため欠席だった小亀会長に代わり當摩彰子副会長によりお誕生日の方々への祝福挨拶があった後、風間和夫元副会長兼事務局長の乾杯の音頭でスタートした。しばし歓談後、会からのバースデープレゼントが當摩彰子副会長から手渡された。その後、お誕生該当者各氏から50音順、7月、8月生まれの順で3分ほどのスピーチをいただいた。

7月生まれは5名(幸田瑞雄、高部素行、高鷲近、富塚哲夫、三宅良太さん)で幸田さんは、ここ数年身近の人々の死亡に接して雑事に追われ過ぎてきたが、体調も良好で落ち着いてきたのでこれからできるだけ会のお手伝いをしていきたいと伝えてくださった。

高部さんは、自分を振り返ってみれば東村山稲門会での様々なことへの参加を通して自分の生活の1/3を費やして楽しんでいる気がするとのことだった。高鷲さんは、昨年一年間の出来事として53年間吸い続けたタバコを一ヶ月の禁煙パイプの利用によって止められ、その後昨年8月16日から一度もたばこ吸っていないと素晴らしい意志の強さで成功されたことのご経験を話された。富塚さんは、7月17日で90歳(卒寿)を迎えられた。体は元気である。音楽の趣味と軽いランニングをして過ごしている、免許も更新したということで、当面は95歳、次は100歳を乗り越える目標を持ち大隈公の言われた125歳を目指したいと意欲を語られた。一同そのお元気なお姿に感心しながらお聞きした。7月の最後のスピーカーは三宅元会長だった。自分の年齢を考え、調整しながら活動して近頃夜の会は遠慮していて、久しぶりの夜の会のご参加とのことだった。しかしまだ稲門会を含め、40程の会に会費を支払いお元気に活躍してお過ごしと伝えられた。

8月生まれは、6名(安部茂、南湖修一、野田数、野中昭夫、番場吉次、福田昇七さん)で安部さんは、退職後も仕事を続けながらエクステンションで昭和史を学びに早稲田大学に行っているの、ついでに早稲田魂というお酒を買ってきたと持ってきてくださった。なお酒は、いつもながら當摩副会長からもご寄付いただいた。南湖さんは、渋谷の三軒茶屋で生まれたことから始まり、ご自分の経歴から現在東村山稲門会にたどり着かれたまでのことについて。そして現在の生活が充実しているとのことだった。48年生まれで若さの際立つ都議会議員野田さんは、東村山浄水場での放射能検査の実施を行う援助をしたことを話され、安心して飲める水道行政への努力活動中であるとのこと。野中さんは、新潟の小千谷市のご出身で、大学へ行く人が少ない状況だったが、蛍雪時代を読んで努力して進学望みを果たせて早稲田に入学できた。そして卒業後は出版の仕事に携わられてきたとのことが話された。番場さんは、内務省に就職したが3年後に解体となったのでさらに早稲田で学び、日刊スポーツ、朝日新聞関係会社の役員として勤務した。退職後油絵を始め現在は、都民展の参事として趣味でご活躍とのこと。福田さんは、原発に対してのご意見やボケ防止の一案として、2日前の日記を書くことよいこと。難しいと思っただせめて2日前の夕食のメニューを書くことぐらいでもよいと話された。

最後に井垣さんのリードで東村山稲門会の歌と校歌が声高く斉唱され、岡田副会長から終りの言葉をいただき、お開きになった。

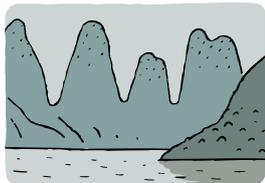
今回ご出席いただいた幸田さんに誕生会の感想を書いていたので、以下に掲載いたしました。

東村山稲門会のお誕生会の内容や由来については、現幹事の滝川さんが今年四月の稲門会ニュースで詳しく説明されていますが、今回も同様に該当者以外に多くの幹事やボランティアの方々のご出席を頂き、大盛会で時の経つのも忘れるほどでした。

和やかな会の雰囲気になりつつ、我が稲門会の創立から今に至るまで歴代会長・幹事・ご担当の献身的なご奉仕がこの和やかな会を実現しているのだと感じ、7年前現役引退時に大恩ある早稲田のため東村山稲門会のために少しでも貢献したいと考えつつ、老母老犬の介護や方々からの相談事その他で会の恩恵に預かるのみで、何の貢献も出来なかった事を痛感しました。

話の内容では、皆さんの報告やお話は多岐にわたりましたが、広島原爆を体験された体験から今回の被爆について原爆被爆と比較して騒ぎ過ぎだとのお話しもでしたが、私も同感でした。専門家もマスコミも後付けばかり、国民に必要な正しい情報を迅速的に伝えて欲しいですね。

幸田 瑞雄 (S34商研)



## 中国で感じたこと

小永井 哲哉 (S 3 5 教育)

中国西南部にある四川省、そこには、石灰華に濾過された青緑色の美しい水の世界が広がっている。九寨溝（きゅうさいこう）、黄龍（こうりゅう）という世界自然遺産だ。

本格的な観光化が進んだ数年前から行きたいと思っていたところへ、今年四月成田ー成都間にANAの直行便が就航した。不安定な中国の航空事情からすれば、他市を経由せず成都へ直接入れるのは有り難い。

その成都是言わずと知れた「蜀」の国の旧都、三国志オタクの私にはたまらない聖地。劉備玄德の遺骨を納めた「恵陵（けうりょう）」、諸葛孔明の徳を偲ばせる「武侯祠（ぶこうし）」は涙のでる思いで拝観した。

この旧都の郊外はすさまじい建築ラッシュの真っ最中だった。10階以上の共同住宅は各戸にガラス張りのベランダを持つマンション、その群の中に取り残された古い住宅が痛ましい。聞けば古い住宅に居住する人には、優先居住権を与えて強制撤去させ、新しい共同住宅に建て替えるという。

中国という国情ならではの施策だが、それを強烈に推進していくエネルギーには、まさに「中国恐るべし」と感じざるをえなかった。

成都から国内便で45分飛んで着いた九寨溝はもともとチベット族を中心とした土地、「九寨」とは九つのチベットの村を表している。各戸はラマ教の祈りの塔を設け、7色の幟を立て並べてひっそりと暮らしている。幟とともに屋根の上に中国の五星紅旗を立てているのを見ると、先年のオリンピック時の騒動は、一応終息したということなのか。

開発の着手から時がたっていない九寨溝には中国人の観光客もいっぱい。しかも夏休みも始まったとのことで、中国人を乗せたバスがつくとにぎやかなこと甚だしい。傍若無人の振る舞いは、以前と一向に変わっていない。

儒教が培ってきた礼節の気風はどこにあるのか。

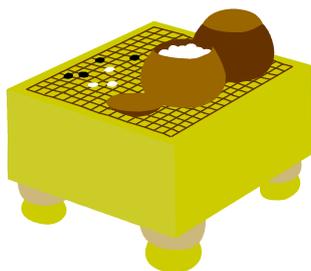
経済発展に遅れる精神発展を痛感した旅であった。

## 同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

## 囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 394-0593  
高 鷲 近 394-2336



●6月の「例会」は、16日(土)、いつもの市民センター別館、第6会議室で行われました。「例会」は、会員の技量の向上とともに会員の親睦を重視して行われます。囲碁のルールを少しでもご存知の方は、ぜひご参加ください。

<参加者/敬称略>一色・江藤・佐久間・高鷲・中川・杉山・野村・福田晃・八木・丸本

○8月の「例会」は、下記の要領で行います。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 …… 平成23年8月20日(土)、午後1時開始  
場 所 …… 市民センター別館 第六会議室

## 俳句同好会 (稲酔会) 世話人 井垣和太 TEL 04-2924-2934



第57回は8月27日(土) 午後2時から「丸藤」で開催  
第57回「稲酔」俳句会は8月27日(土) 午後2時から、久米川駅前  
の「丸藤」2階の部屋で開催します。

近年の気候は、春夏秋冬のけじめがなく、すっかり地球が変わってしま  
ったようにも思えますが、我々の生活様式が無機質になってきている  
ためではないかと思えます。

俳句をたしなむようになりますと、動物、植物の日々に注目するようになり、それらを通して自然の営みを感じられ、季節の移ろいが見えてきます。人間の生活も自然のサイクルのなかにあると納得できます。「稲酔」俳句会へ一度お出かけください。

今回の兼題は《新涼》(初涼、涼新た、秋涼し、秋涼、爽涼)です。

夏の季語「涼し」は暑さの中の涼しさですが、待ちに待った秋が来た「新涼」は、異なったニュアンスがあります。兼題を含む近詠5句を出句してください。

新涼の白きてのひらあしのうら 茅舎  
秋涼し手毎にむけや瓜茄子 芭蕉  
爽涼の女滝男滝と鳴り応ふ ひろし

(稲雀記)

## テニス同好会

世話人 田島 隆夫 TEL 396-7676



7月の例会は、7月17日(日)、9時から11時まで久米川コートの3番で行いました。連日の晴天で、コートがクローズになる心配はありませんでしたが、今度は暑さの方が心配になりました。しかし、そこは老練な人達なので適度な休憩と水分補給をして2時間フルにゲームを楽しみました。

コートに一番乗りをしていた福田さんと野村さんは、さすがに随所に元気なプレーを見せてくれました。

参加者は、市川(彰)夫妻、小菅、滝来(京)、當間(昭)、野村(茂)、福田(昇)の各氏と田島の8名でした。

なお、震災で延期していた合宿は、本年10月30日(日)～31日(月)に同じ石和で行うことになりました。

(今後の予定)

8月28日(日) 9時～11時 運動公園 Aコート  
(予備日なし)

9月4日(日) 13時～15時 運動公園 Aコート  
(予備日未定)

## ゴルフ同好会

世話人 井垣和太 TEL 04-2924-2934



### 2011年秋季ゴルフコンペ(第30回)9月16日(金)

同好会の皆様には、石川新世話人からご案内を差し上げましたが、第30回秋季稲門会ゴルフコンペが9月16日(金)西武園ゴルフ場を舞台に開催されます。

未だ出場枠に空きがあるかと思えますので、参加ご希望の方は石川武さんまでお問い合わせ下さい。

また、第3回の早稲田大学校友会ゴルフ大会が11月10日(木)久邇カントリークラブで行われます。ご関心のある方はどうぞお問い合わせください。

### 知っ得ゴルフ 11番ホール アドバイス

「ナイスショット!何番で打ったのですか?」「5番アイアンですよ。大きいかなと思ったけど・・・」同伴競技者に尋ねられて、思わず答えてしまったあなた。普段何の意図もなく交わしている会話ですが・・・JGAルール適用の競技では、プレーヤーのプレー上の決断、クラブ選択またはストロークの方法に影響を与えるような助言または示唆に当たるので、2打罰対象になりますよ。(ピン位置、バンカー位置等公知の事実はOK)。助言を与えた方、求めた方も共にペナルティの対象になります。さりげなくキャディバッグを盗み見すれば済む話。

「私(キャディ)には棒の振り方を聞いても良いのよ。パートナーだからお客さん。ちゃんとやらないと穴に入らないわよ。」

## カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 393-5071



酷暑の続く毎日、御互いに熱中症にきをつけましょう。  
さてメインイベントの一つの新宿への移動カラオケ大会は、色々な理由で欠席者が続出、開催不能となりました。誠に残念でした。  
9月又は10月に延期して開催する予定です。お楽しみに。

今後の予定

8月 6日 (土) 19:10より カラオケランド ズー  
9月10日 (土) 19:10より カラオケランド ズー



## 「台地の農業と農家の暮らし」 (その2)

江藤 昌明 (S27政経)

## ③ 農家の暮らし

東村山地区の主要生産物は繭・茶・小麦・さつまいも・野菜等であった。農家は桑畑・茶畑を広く持ち、養蚕・製茶を盛んに行った。養蚕は蚕の飼料に桑の葉を摘み、小屋又は室内の二階部分などまで蚕室にして上等な絹織物用の繭玉の生産につとめた。茶は茶畑から摘んできた茶葉を農家の庭先で蒸したり、セイロを使って汗だくになりながら手もみで作るので、味もよく「狭山茶」の名で全国に有名になった。

さつまいもや野菜類は神田・荻窪方面の青果市場まで大八車やリヤカーで出荷していた。このように農家の男子は耕作から出荷までの労働に、女子は機織に精を出すものが多かった。

しかし、恐慌に次いで戦争の時代を迎え、食料増産政策が推し進められるに従い、かつては食糧を作る畑以外は一帯に桑畑か茶畑であった農地も、次第にその姿を変え、今は桑畑は全く無くなり、僅かに茶畑を残すのみになった。一方農地と労働力をみると、地形のためかあまり広大な土地を持つ農家はなく、村人達はお互いに労力を惜しまず協力し合い、農具の使用なども共同で行い平和に農業にいそしんできた。

土地をあまり持たず、地主から耕地を借りて農業を営むいわゆる小作農の者もあり、これらの人々は主として自家消費の農作物を作り、併せて他に勤労を持つか又はささやかな商売を営んでいた。

更に農家の構えをみてみよう。屋敷林に囲まれた藁葺き屋根の農家には、母屋(おもや)のほかに物置・納屋・倉・外便所・堆肥小屋などさまざまな建物があつた、家によっては牛・馬・豚などの動物小屋もあり、鶏舎は殆どの家にあつた。

屋敷の前庭は広く、脱穀・棒打ち・製茶・餅つきなど共同で作業するのに便利であつた。裏には井戸があり、つるべや手押しポンプで水をくみあげて、飲み水をはじめ勝手や風呂或いは洗濯などに使用した。

庭の一隅にはどこの農家にも堆肥置場や、さつまいもを作るさつまいも床があつた。ちなみにさつまいもは麦を収めた後に植え、麦とさつまいもは輪作であつた。また作物の豊穰を祈るため、屋敷神として稲荷を祀つた家もかなりあつた。

屋敷内に入ると馬屋のある家もあつたが、多くは農具置場と竈(かまど)があるタタキと勝手・流しなどが間仕切りも無く作られていた。

部屋の回りは縁側で囲まれ、内側には四角い部屋がいくつもあり、畳や板敷きであつた。部屋は座敷・オク・デイなど使い方により呼び名までちがひ区分されていた。神棚と仏壇はどこの家にも必ずあつた。

縁側は日向作業や衣服のつくろいものなどをするのに使われていたが、年寄りが日向ぼっこや、近所の人達と茶を飲みながら雑談をする姿がよく見られるところであつた。

また屋敷内に蚕室を置く家も多く、そこには蚕を飼つておく棚を作り、むしろを敷き、飼料に桑畑から摘んできた桑の葉を置き、寒い日には炭火で暖をとってやるなど、蚕は家族の一員のように大切にされた。

(以下 次号で最終)



## 発見！熱中人in甲子園

大内 一男 (S46社)

NHK のバラエティー番組「熱中人」を毎週楽しみに見ていた。降った雨が左右どちらの斜面を流れるか、それを分ける境界「分水嶺」。地図には無い、その分水嶺を探しに全国どこまでも行く熱中人。そこが自衛隊の基地の中であっても、あると見れば頼み込み実証する。

「鍾乳洞」を中心に前人未到の洞窟の発見に30年以上も熱中、これまで200以上の新洞を発見してきた熱中人。

鉄道の駅になぜかある「枯れ池」にこだわる熱中人。井戸水を汲む「手押しポンプ」を探し写真に収めるのに熱中する熱中人等次々と奇想天外な趣味に熱中している人を、熱中人として取り上げた番組である。

登場する熱中人達の、潔いのめり込み方には、他者に口を差し挟ませない迫力があつた。何かを究めた者のみがつ存在感があり、その徹底ぶりに驚嘆したものである。

今年も第93回全国高等学校野球選手権大会が8月6日(土)から20日(土)まで、15日間「阪神甲子園球場」で開催される。

ホームベースの真後ろのネット裏席にTV中継の画面に、もろに映る一群の席がある。横に10席奥に7段のネットと通路に囲まれたゾーンである。特に1塁側通路から3塁側に6列目、前から3段目までの計18席を「私」はゴールデンシートと呼んでいる。ここは必ずTVに映るのだ。

夏の大会の暑さは半端ではない。もともと大阪地方の夏の厳しさは有名である。ネット裏の前方の席は、朝の一部の試合を除いて日を遮るものが無い。銀傘のお陰で日陰が出来るのはネット裏でも上段に登った席になる。

この炎天下の甲子園ネット裏ゴールデンシートで「全試合」を生で観戦することを目的とした熱中人の集団が存在するのだ。そして一つのコミュニティーを形成している。

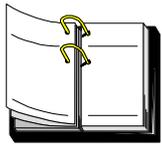
ゴールデンシートでは試合中の食事、ビール等のアルコール類を飲むことは厳しく戒めている。グラウンドで真剣勝負をしている高校生に失礼であるからという配慮からだ。もちろん熱中症対策のため甲子園名物の「かち割り」や凍らせたペットボトル等からの水分補給は奨励されている。

極め付きは、この席を確保するための努力である。高校野球に指定席は無い。中央特別自由席券1600円也の当日券を朝一番で並んで購入しても、すでに遅い。当日券販売窓口からネット裏の入り口8番ゲートまでは30M程ある。すでに前売りの15日間の通し券を持っている徹夜組の人々が8番ゲートの前に50人ほどすでに並んでいるという状況になる。にわかにな一念発起した高校野球ファンがこれらの席を獲得しようと思っても、ほとんど不可能なのである。

彼らは一日の試合が終わると直ぐに8番ゲート前に、椅子或いは段ボール持参で翌日の試合のため列をつくる。前から10人目くらいまでの「超熱中人」は球場の近くに宿をとっているのが通例である。とりあえず徹夜用の席を確保するとシャワーを使い宿へ帰り、夕食を済ませ夜半に列に戻り朝を迎えるのである。折角の宿で寝る事はほとんど無い。そして日課のように開門と同時に脱兎のごとくゴールデンシートを目指す。

この文章をお読みいただいた皆様は6日から始まるNHKTVの中継画像を是非ご覧ください。最前列一塁側通路(左)から3番目には「ラガーシャツ」を纏った埼玉から来ているM氏が、2段目の左端には「黒いポロシャツ」の神奈川のK氏が目に入るであろう。

そしてM氏が何枚の色違いのラガーシャツを持っているか15日間チェックしてください。分かれば、あなたもまた違った意味での「熱中人」に仲間入りしたとあって良いでしょう。



## 今月の行事（8月）

- 6日（土） 8月度役員会  
納涼会  
カラオケ同好会
- 19日（金） 園芸の会
- 20日（土） 囲碁同好会
- 27日（土） 俳句同好会
- 28日（日） テニス同好会

## 9月の予定

- 4日（日） テニス同好会
- 10日（土） 9月度役員会  
9・10月合同お誕生会  
カラオケ同好会
- 16日（金） ゴルフ同好会



## 編集局だより

○ある時代の終わりを感ぜさせる出来事があります。7月はそんな月でした。日本ではよくご存じのアナログ放送の終了。アメリカでもスペースシャトルが最後の宇宙飛行を終えて引退しました。昨年、小惑星探査機『はやぶさ』の偉業が話題となり、あながち宇宙が全く遠い世界の話というわけでもないのですが、地デジ化は実に身近な問題でした。TVを新たに購入したり、チューナーを取り付けるなどして自分を含め大多数の人はデジタルに移行したでしょう。でも、そうではない人たちもいるはずで。3月の計画停電の時、ラジオをつけて聞いていたのはTV音声でした。普段ラジオでTV音声を聞くことはないのですが、これからは聞けなくなるだろうと漠然と思ってはいました。視覚障害者のかたなど地デジ化によりラジオでTV音声が聞けなくなって不便とのニュースに、「やはり」という感じです。ラジオでTV音声を聞いている人たちのニーズは切り捨てられたのでしょうか。地デジ化の負の部分も忘れてはいけませんね。

○次号の原稿締め切りは8月25日（木）です。よろしくお願いたします。

（中村）

fax: 042-391-0581 email: mym-naka@u01.gate01.com

## 俳壇

堂涼したしかに笑う翁面 小永井 哲哉  
牛乳に薄皮のひだ屋寝覚 高部 糸行  
芝刈りて涼しき風の庭となり 戸田 梶  
脱ぎ終えし蟬第一声のおぼつかかな  
機影掠め<sup>かす</sup>ミンミン止みし里の山 内藤 慎  
アメンボととんぼニアミス池の面  
武蔵野の地下で育つや独活の花  
炎屋に打ち水むなし玉の汗 丸本 北窓  
炎屋や神も仏も凡骨も  
三伏の終るをひとり惜しみけり 八木 竜湖  
大物と言はるる鮎を釣りにけり  
夕風に毛虫おもたき葉裏かな 栗島 三郎  
語ることもまた一つ増え原爆忌  
猛暑きて思考まどわすことしきり 井垣 稻雀  
一閃となりて鳥入る夏木立  
華やかなままで散ります凌宵花 出田 麦穂  
娘今日母となりたり合歡の花  
万緑や長女の胸に赤子泣く 菊田 一平  
ながながと電器蚊取りのコード纏ぐ  
砂たたく音にどよめく西瓜割 幸田 瑞雄  
のうぜんを垣根に纏ふ古民家  
でんと置くギヤマン大鉢冷素麺 小亀 稻生  
百歳の母七夕の星となる  
左千夫忌や矢切の渡し水青く